平成　28　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271102404		
法人名	有限会社　クレイン・ケア		
事業所名	グループホーム　晴海の丘	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市蚊焼町210番地1		
自己評価作成日	平成28年5月11日	評価結果市町村受理日	平成28年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3－13－11　サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年6月2日	評価確定日	平成28年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『お話いっぱい、笑顔がいっぱい、花がいっぱい、だからしあわせがいっぱい』という理念のもと、利用者様の笑顔を大切にしながら個々人の思いと真剣に向き合い、意思を尊重したケアを実践している。家族様との関りも積極的に行い、利用者様に関することのみならず様々な相談に応じ、より良い関係作りを図っている。また、資格取得に向けた努力や毎月開催中の勉強会への積極的な参加など、職員のケアに対する向上心が多く見受けられるようになっている。これに加え、新人職員に対する研修カリキュラムを含めた業務マニュアルの確立に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム晴海の丘”は新たなステージを迎えている。開設前から長期及び短期目標を掲げ、1歩づつ着実に成果を積み上げてこられた。施設長と次長の想い（理念）を共有し、目標に向かって歩いてきた介護士長と主任、職員の方々の結束も強く、ご利用者への尊厳と愛情の姿勢を常に持ち、日々のケアに活かされている。ご利用者が何を望み、何をしたいのかに思いを巡らし、その人らしい生き方を一緒に模索することで、安全で安心した生活を送って頂けるように支援している。今後も引き続き、家族との情報交換を行い、ご本人の体調や思いの把握を続け、短時間の散歩（気分転換）の機会を増やしていく予定である。28年度からは職員の勉強会に地域の方をご招待しており、認知症などの勉強等の機会も作られている。地域貢献の姿勢を具現化し、地域の方々と共に理念の実践に繋げているホームであった。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で利用者様との会話やレクレーション・イベント等を理念を考慮し行っているが、全員が共有できるまでには至っていない。	チーム力は強くなっている。ご本人の体調や思いに寄り添い、穏やかな生活が送れるように努めている。「しあわせ」と思えるように梅干し作りも行われ、ご利用者が長年培ってきた知恵と経験を教えて頂いている。地域の方も招待し、一緒に学ぶ機会が作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が主体となり開催されているネットワーク(事例検討会)会議・防災マップ作成等に数名のスタッフが参加している。また、事業所内での敬老会・クリスマス会に地域の方が参加されている。	民生児童委員主催の防災ﾏｯﾌﾟの作成や勉強会に主任等が参加されている。地域包括主催の会議にも参加し、高齢者の支援のあり方の情報交換をしている。28年度は地域の方を職員の勉強会に招待し、認知症の理解等を学ぶ機会が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2回/月の事業所内勉強会へ地域の方の参加(受講)を募るようにしている(平成28年度より)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や体調の変化・事故報告(ヒヤリハット含む)等を詳しく説明し、委員意見を参考に日々の支援に繋げている。	毎回の会議の中でテーマを考えると共に、委員の方の関心事等も大切に意見交換を続けている。介護職の人材確保や看取りケアの報告も行われ、委員からの質問に答えると共に、多方面からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請・手続き等で訪れたり、電話連絡の際に事業所の実情等を伝えている。協力関係に支障はないものの、積極的な働きかけには繋がっていない。	社協(後見人)との情報交換や、生保担当のｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰの訪問も毎月あり、密な情報交換が行われている。書類提出時に介護士長や事務担当職員が市役所を訪問しており、電話で相談した時も親身にｱﾄﾞﾊﾞｲｽをして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に限らず、外部研修にも参加し、拘束の定義や種類等の理解を深め、日常生活に於いてその都度スタッフ間で検討しながら身体的疲労・苦痛・ストレスを与えないように努める。	ご利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、「尊厳の確保」をケアの実践目標として日々のケアに努めている。施設長が講師になり、認知症の勉強会も続けられ、認知症の知識と理解を深め、日々の現場で応用できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やﾐｰﾃｨﾝｸﾞでも定期的に課題として取り上げ、意見の交換を行っている。また、日常生活に於いて言葉や支援のあり方についてスタッフ同士で見直しを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会については少ないが、研修への参加・伝達講習を行うことで、利用者様に関わるスタッフ全員が相談・支援できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者のみならず、関係する職員が不安や疑問を十分に聞き取り、理解・納得して頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の状況・表情・様子等を時には写真や映像を利用しながら細かく伝え、意見・要望・不安な気持ちなどを遠慮なく言ってもらえるような雰囲気作りを行っている。また、雑談の中からも真意（本意）を汲み取れるような対話技術の向上にも努めている。	ｽﾀｯﾌ同士の関係も良好で、ﾎｰﾑ内の温かさに繋がっている。家族が面会に来られた時も、ｽﾀｯﾌと気軽に会話ができる雰囲気ができている。定期のお便りにも笑顔の写真を掲載し、日々の暮らしぶりを伝えている。家族の要望を伺い、介護計画に盛り込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のミーティング内や必要であれば個別面談を行い、常に意見・提案に耳を傾ける。出来る限り実践に繋げることで、スタッフ自身に自信をつけてもらえるよう工夫している。	勉強熱心なｽﾀｯﾌが多い。ｽﾀｯﾌから研修の希望が聞かれ、適宜、施設長に報告している。ｽﾀｯﾌのｱｲﾃﾞｱを活かした行事企画も続けており、ご利用者とｽﾀｯﾌも楽しめる事を考え、実践に繋げている。ﾐｰﾃｨﾝｸﾞで職員個々の意見を把握できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常業務の中で管理者も関わる場面を多く持ち、個々人の状況把握に努め、向上心を持って働くことができるよう努めている。また、2回/年の健康診断を実施し、心身の健康を保つ対応も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、スタッフ個々に合わせた（経験年数や希望・要望含む）研修受講を勧めている。参加希望者は増加しており、全スタッフへ浸透しつつある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する際などを利用し、同業者との交流・相互訪問等を通じて意見交換を行い、互いにサービスの質の向上に繋げられるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学をしていただくことで雰囲気を感じてもらい不安や要望に一つ一つ答えていくよう努めている。また家庭を訪問させていただき安心感のある場所での話の引き出しを工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しを引き出し、聞くことに重点を置いている。聞きながら不安・要望等を整理し、確認させていただくことで信頼関係の構築につなげられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の実情や要望をもとに必要なもの(こと)を見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。必要に応じて他のサービス利用の調整を行い、安心・納得の上で利用が開始できるよう支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人ができることを知り、一緒に行うことで喜びや悲しみを分かち合い心が通う関係を築いている。利用者様からの優しい言葉かけに心穏やかにケアの実践ができていることに対し、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況をできる限り細かに伝え、家族様の協力が必要な場面について説明・依頼している。利用者様のことだけではなく、認知症についての説明やケアの相談をさせていただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・親類・知人・近所の方等、馴染みの方の訪問は続いており、スタッフも共に談話する機会も常となっている。体調不良や流行性感冒等もあり、外出の機会は少ないのが現状である。	昔からお世話になっていた方や知人の方等が数人で来られ、お部屋でゆっくり過ごされている。手紙を頂いた時は、ｽﾀｯﾌが読んでさしあげている。馴染みのｽｰﾊﾟｰに家族と買い物に行かれたり、家族と外食に行かれた方もおられ、食事形態等を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇時間の過ごし方・食事の席などの工夫を行い、お互いに関わりやすいように考慮している。また利用者様同士、いたわりあうような言動も多く見受けられている。また、居室で過ごす時間の長い利用者様とも会話する機会を増やしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の本人・家族の状況を把握するようにしており、必要があれば相談を受けられる用意があることを家族に伝え、また応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情・様子等から真意を汲み取り、思いに添えるような支援を行っている。また、家族様との面談や面会時の雑談等の中からも意向や要望を推察するよう努めている。	食事の前後やおやつの時間などに意向を伺っている。ご利用者同士の会話から真の思いを発見する事も多く、「家に帰りたい」等の要望を伺い、家族にも協力して頂いている。今後も「外出」等の要望を引き出し、家族と一緒に叶える方法を検討する予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様が繰り返し語る事柄や好む事柄などほんの小さなことでも家族より情報を伝えてもらい、本人の全体像を知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様が「今、何がしたいのか」「どんな思いで過ごされているのか」を言葉や表情から読み取り・把握し、その思いに添える支援を心掛けている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様の状況は刻々と変化しており、現状と介護計画をかみ合わせながら思いや意見・要望を反映させ3ヶ月毎に更新している。	施設長や次長、介護士長からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽもあり、計画作成担当者や各担当ｽﾀｯﾌがｱｾｽﾒﾝﾄや計画の原案を作成している。微妙な体調変化もｽﾀｯﾌ間で共有し、介護計画に反映させている。家族との外出なども含め、洗濯物たたみ等の役割も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事・水分量・排泄状況などの身体的状況及び、日々の暮らしの様子や言葉、エピソード等を記録。スタッフ間での情報の共有・ケアの実践及び、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の状況に応じて通院の送迎を行ったり、そのために必要な職員のローテーションなどの工夫に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ地域包括支援センターの職員・民生委員に参加いただき情報交換・協力関係を築いている。また消防署職員には定期的な訓練・講習等で協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の希望される医療機関へ受診・往診を支援している。また、主治医への情報提供・情報交換を行い、連携に努めている。	次長（看護師）から日々の指導を続き、ｽﾀｯﾌの観察力も深くなっている。体調変化時の次長への報告ﾎﾟｲﾝﾄも明確で、往診（月２回）時の医師への情報提供も密に行われている。眼科は家族が通院介助をしており、受診内容の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で些細な変化も見逃さないよう早期発見に努め、速やかな看護職への報告と適切な医療支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関へ提供、入院中は家族様と回復状況等の情報交換を行っている。また退院時には医療機関とのカンファレンスを行い退院後のスムーズな生活支援につなげられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの介護開始時には同意書を作成。書面にも記載される本人・家族の意向を踏まえ、医師・スタッフが連携し安心して納得した最期が迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいる。	入居時に、施設長（看護師）が終末期の意向確認をされている。「今はわからない」と言う思いも受容し、記録に残されている。次長（看護師）との毎月の面談で、「最期までここで・・」と希望される方も多く、医療連携を密に行いながら、誠心誠意のｹｱが行われている。終末期は家族も宿泊し、ﾏｯｻｰｼﾞ等をして下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得てAEDの使用・蘇生術の研修を実施。緊急時対応についてマニュアル整備に努め、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の協力を得て、年2回の避難誘導訓練、消火器・AEDの使用についての訓練を行っている。また、1回/月の事業所単位での訓練（消火・通報・避難）も実施中である。また運営推進会議で地域の協力を呼びかけている。	スプリンクラーを設置している。各居室入り口には心身状況に応じた搬送表示（赤、黄、緑）を行い、災害時に活用できるようにしている。訓練は3つの系列施設合同で行われ、出火場所を変えて訓練が行われている。2階のホームから隣の系列施設の屋上に避難する事ができるよう、ホーム内の改装も行われた。職員も家からの到着時間を測定したり、地域主体で防災マップも作られている。	防火管理者は隣の地域の消防団であり、今後も事業所のある地元の消防団との訓練が検討されている。3日分の食料等を準備しているが、災害時は地域の方の避難場所として開放する予定であり、今後も備蓄の検討を行う予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回のミーティング内で「尊厳の確保」が行えているか自身を振り返り、利用者様に不快な思いをさせなかったか省みる。また、検討方法や声掛けの仕方等について勉強会を行っている。	施設長が作られた理念と共に、ホームの重要事項の表現も優しく、入居される方や家族への尊厳の姿勢を感じる事ができる。地域の方を招いての勉強会を行うことになり、個人情報管理の勉強をすると共に、守秘義務の重要性の理解も深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のみならず、表情や動作等により表している思いや希望を汲み取る努力を惜しまず、利用者様自身が選びやすいような表現・言葉掛けや場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課によらず、利用者様個々人のペース・意思・体調等を考慮・尊重し、出来得る限り個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に色合いや上下のバランス・季節等を考慮しながら更衣していただき、似合っていることを言葉で伝える。また、行事等の企画に化粧やおしゃれをすることを導入し、楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの把握や盛付けの工夫に努めている。一日（朝・昼・夕食）の献立をホワイトボードに記載しておき、話題に取り入れることで、期待感を演出している。	土日の昼夜は配食ｻｰﾋﾞｽを利用するが、それ以外は調理担当の方や職員が手作りされている。おやつも手作りが多く、お好み焼きや水ようかん等を楽しまれている。ご利用者が果物（枇杷やみかん等）やつわの皮むきもして下さり、梅干し作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の日々の体調や一日の食事量・飲水量の把握に努め、摂取量を考慮しつつも好きなもの・食べやすいものを優先して提供するなどの工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身でできる方には声かけ、見守りのもと行っていただく。できない方はガーゼの使用などにより、口腔ケアの介助を行なっている。また、研修等により習得した知識・技術を伝達・活用することに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により個々のパターンを把握し、誘導・声掛けには羞恥心や不安への配慮を行うよう努める。排泄の自立については、個々人に合った支援を考慮・検討する。	排泄が自立し、布の下着を着用している方もおられる。身体レベルの低下に伴い、尿便意を伝える事が難しい方もおられるが、できる限りトイレでの排泄を大切にされている。ご利用者個々の排泄リズムや排泄量等に即したパッド等を選ぶようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を常に観察し、看護師への報告・指示を仰いでいる。また、水分補給の徹底、食材選びの工夫を行なっている。身体を動かす為のレクレーションの検討も必要である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の希望を確認しながら入浴いただいている。入浴を拒まれる方に対して言葉掛けや対応の工夫を行っている。また、主に午後に入浴を行っているが、突然の希望(午前の入浴)にも対応するよう努めている。	菖蒲湯や柚子湯を楽しまれている。座位が困難な方は清拭を行ったり、浴室にマットを敷き、臥床した状態で全身が洗えるようにしている。入浴時はスタッフとの会話を楽しまれ、ゆっくり入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の訴えは多々あり、不眠の背景と原因を追究し、寝具・照明・室温の確認及び、疾病状況を考慮し、訴えを良く聞き精神的安定を図る。また、日中の過ごし方を工夫する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者様一人ひとりの疾病と薬の理解が出来るよう工夫している。また状況の変化が認められる際には、より詳細な観察と記録を行い看護職員や医療機関への情報提供により連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や生活歴を良く知り、その方に出来ること(洗濯物たたみやテーブル拭き等)をスタッフと一緒に楽しみながら行なって頂く。負担にならないよう短時間で行なえる工夫に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダより海や敷地内に咲いた花を見ていただき、外気を味わってもらっている。また、他部署よりプランターの花を頂き、水やりと成長を楽しまれている。かかりつけの医療機関へは、スタッフ若しくは家族様と受診して頂いている。	海が見えるベランダでの日向ぼっこは最高で、ベランダから桜の花や野鳥等を眺める事もできる。体調や天候に応じて敷地内を散歩したり、三番館まで散歩している。二番館には車で行かれており、合同レクのお茶会にも参加された。家族と病院受診時に買い物に行かれる方もおられる。	往診が増えた事や風邪等の罹患予防もあり、外出の機会は減っている。まずは事業所の庭先の花見や周辺の散歩の機会を増やし、体調確認をしながら、徐々に行きたい所(自宅周辺)や馴染みの場所、買い物などにお連れできればと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお預かりし、金銭管理は事業所で行っている。外出支援と併せて買物の機会を設け、自身で支払いを行うことが出来るような工夫に努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけていただいている（ダイヤルはスタッフにて）。また、家族様からの電話もあり、電話口まで介助する等の支援を行っている。手紙については、届く方が多いが、スタッフが代読し喜ばれている。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な広さのリビング内で思い思いに過ごせるよう、また安全に配慮して動けるよう家具の配置などを工夫している。スタッフからも常に利用者様の様子や移動の状況が確認でき、利用者様に「いつでも側に誰かがいてくれる」という安心感を与え、その上で過ごされることに邪魔にならないように努めている。	リビングで過ごされる方が多く、季節の飾りを心がけている。リビングの3つのテーブルは場面に応じた移動が行われ、2つのソファーにはご利用者が仲良く座られている。日差しの調整には“日よけネット”を使用しており、温湿度計を活用し、冷暖房や温湿度調整が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で肩を寄せ合いソファで居眠りされたり、お互いの居室を行き来し会話を楽しまれたりしていただいている。そういった場面ではスタッフは必要以上に関わらず、見守りや気遣いをさり気なく行うようにしている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や思い出の品などをお持ちいただき、家族様に中心となってもらいその人らしい居室作りを支援している。	居室からは緑の木々を眺める事ができる。船の写真を飾り、航海の話をして下さったり、家族の方が居室の飾りつけをして下さっている。ご主人の遺影（軍服）を飾り、自宅で使われていたｿﾌｧｰや椅子なども置かれ、家族も寛がれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの「できること探し」を常に行い、状況に合わせて環境整備に努めている。また、状態変化にも速やかに対応できるよう日々の観察と検討を行っている。		